

# 2024年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

ミッション・ステートメント (使命宣言) : 「私たちは、生徒の**自尊感情**を高める実践を追求します。」

バリュー・ステートメント (価値宣言) : 「私たちは、生徒・保護者・職員・学校関係者との**コミュニケーション**を大切にします。」

## 1 スクール・ミッション (本学園の存在意義・社会的役割を踏まえどのような学校の実現を目指すかを示す「目指す学校像」)

- |   |   |
|---|---|
| 1 | さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも頑張っ生きていこうとする子どもたちを受け入れ、仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校 (No student is left behind.)  |
| 2 | 生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて「 <b>自立と社会参加</b> 」を果たす学校 (Independence and social participation through overachievement) |
| 3 | 生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校 (We love “Tokufu.”)  |

## 2 スクール・ポリシー

### (1) グラデュエーション・ポリシー (卒業までにどのような資質・能力を身に付けた生徒の育成を目指すかを示す「目指す生徒像」)

- |   |   |
|---|---|
| 1 | <b>自己成長感</b> (「できなかったことや諦めていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感)、 <b>自己効力感</b> (「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感)、 <b>自己有用感</b> (「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感) を持った <b>自尊感情</b> の高い生徒 (Self-esteem) |
| 2 | <b>自己指導能力</b> (その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力) を有する生徒 (Self-guidance)   |
| 3 | <b>ソーシャルスキル</b> (他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能) と <b>ライフスキル</b> (社会生活・職業生活等に必要な基礎的・基本的な知識・技能) を身に付けた生徒 (Social-skills and Life-skills)   |

### (2) カリキュラム・ポリシー (「目指す学校像・生徒像」を実現するためにどのような目標・内容の授業を行うかを示す「目指す教育課程」)

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 「自立と社会参加」に必要な「 <b>基礎的・基本的な学力</b> 」と「 <b>実践的・専門的な技能</b> 」を身に付けることができる教育課程 |
| 2 | 「自立と社会参加」に必要な「 <b>自尊感情</b> 」を高めることができる教育課程                               |
| 3 | 「自立と社会参加」に必要な「 <b>ソーシャルスキル</b> 」と「 <b>ライフスキル</b> 」を身に付けることができる教育課程       |

(3) アドミッション・ポリシー（入学時にどのような生徒を積極的に受け入れるかを示す「期待する入学者像」）

|   |   |
|---|---|
| 1 | どの学校に進学するかを決め、その学校の入学試験に合格し入学するという課題に対し、人任せにせず自分で解決しようと決心した生徒 |
| 2 | 自らの課題・特性により「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも、屈することなく頑張って生きていこうと決心した生徒      |
| 3 | 「自分を変えたい、変わりたい」という思いで「学び直し」・「生き直し」をしようと決心した生徒                 |

(4) スタッフ・ポリシー（職員にどのような姿勢・態度の体現を期待するかを示す「目指す職員像」）

|   |   |
|---|---|
| 1 | 多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く協働と利他の精神（Collaboration & Altruism）を体現した職員   |
| 2 | スクール・ミッションの実現に向けて主体的に職能成長を続ける専門職（Profession）としての姿勢を体現した職員                             |
| 3 | 「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢（Synthetic Competence）を調和的に体現した職員 |

(5) コース・マネジメント・ポリシー（どのような知識・技能を習得し、どのような人材育成に取り組むかを示す「目指すコース像」）

|          |  |
|----------|--|
| 総合コース    | 社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす“最強の常識人”を育成するコース         |
| ドッグケアコース | 犬の訓練・美容に関する基本的な知識・技能を習得し、動物との共生と愛護精神の向上に貢献する“ドッグマスター”を育成するコース          |
| パソコンコース  | 情報社会で生きる基本的な知識・技能を習得し、学習の個性化と指導の個別化の徹底を通じて“とがったITジェネラリスト”を育成するコース      |
| 日本語コース   | 卒業に必要な「学ぶための日本語」と社会参加に必要な「生きるための日本語」を習得して希望進路を実現する“自立した日本語使用者”を育成するコース |

### 3 学校経営上の重点目標

本学園には、高等学校通信教育の形態、教育課程の実施方法、生徒の学校生活の送り方等に関して、他ではあまりみられない特色ある仕組みや取組が次のとおりたくさんあります。それらを本学園では“徳風スタイル”と表現しています。

|        | 徳風スタイル  |
|--------|---|
| 教育システム | <input type="checkbox"/> 高専併修による“ダブルスクール教育” <input type="checkbox"/> 日本語コース設置 <input type="checkbox"/> チーム担任制 <input type="checkbox"/> 5年一貫教育(注1)   |
| 学校生活   | <input type="checkbox"/> 30人学級 <input type="checkbox"/> 9時30分始業 <input type="checkbox"/> スクールバス通学 <input type="checkbox"/> 生徒寮 <input type="checkbox"/> 「徳風総合支援プログラム」による支援(注2)  |
| 授業     | <input type="checkbox"/> 45分5限授業 <input type="checkbox"/> 公文教材を使用した3年間の学び直し学習 <input type="checkbox"/> “ライフスキル”と“ソーシャルスキル”の習得 <input type="checkbox"/> 5日間の定期試験<br><input type="checkbox"/> 徹底した補充授業(注3) <input type="checkbox"/> 「自立支援型デュアルシステム」の実施(注4) <input type="checkbox"/> 「三重徳風学園奨励金制度(エンカレッジ制度)」創設(注5) |

(注1) ドッグケアコース・パソコンコースの生徒が徳風技能専門学校専門課程(2年間)のトリミング科・コンピュータ科に進学して知識・技能を向上させる仕組みのこと。

(注2) 特別な支援を必要とする生徒について、保護者や医療・福祉・行政等の関係機関との連携協力体制の下、当該生徒の成長を適切に支援するための取組のこと。

(注3) 学校に行きたくても行けない生徒など、やむを得ない理由で欠席を繰り返した生徒に対し、欠課時数の多い科目等の履修を可能な限り支援する仕組みのこと。

(注4) 標準的な実施方法や一部の専門高校が実施している「日本版デュアルシステム」とは異なる、本校生徒の実態等に即した拡大版インターンシップのこと。

(注5) 自らの課題・特性・環境を「バネ」にして前向きに生きていこうと頑張る生徒(例えば、アルバイトをして家計を助ける生徒、家事や家族の世話、介護等をしている生徒等)や学校指定の運動部に所属し勉学との両立に励む生徒等の支援を目的とする奨励金制度のこと。

当面、次の2点を学校経営上の重点目標に据え、“徳風スタイル”を更に進化させていきます。

### 重点目標1：“フレキシブルスクール”への更なる進化

- 本学園は令和2年度、徳風技能専門学校高等課程において、商業実務分野に属する「国際ビジネス科」に加え、文化・教養分野に属する「総合科」を新設して2分野2学科体制に拡充するとともに、“ダブルスクール教育”を可能にする徳風高等学校との連携制度について、令和2年度以降の入学生を対象に、年次進行で、これまでの「技能連携」（学校教育法第55条に基づき、都道府県教育委員会の指定する技能教育施設における学習を自校における職業教科の一部の履修とみなすことのできる制度）を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい「高専併修」（学校教育法施行規則第98条第1号に基づき、大学、高等専門学校又は専修学校等における学修を自校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることのできる制度）を新たに導入してきました。
- この制度改革により設置可能となった「日本語コース」を第4のコースとして令和3年度に立ち上げ、「本格的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校」として進化を図るなど、本学園は、「社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する“フレキシブルスクール”」として、更なる進化を続けていきます。

|                 |                |              |                  |         |
|-----------------|----------------|--------------|------------------|---------|
| 令和元年度<br>まで     | 徳風高等学校（全日型コース） | 徳風技能専門学校高等課程 |                  | 両校の連携制度 |
|                 |                | 分野           | 学科               |         |
|                 | ドッグケアコース       | 商業実務分野       | 国際ビジネス科          | 技能連携    |
|                 | パソコンコース        |              |                  |         |
| 総合コース           |                |              |                  |         |
| 令和2年度<br>から     | 徳風高等学校（全日型コース） | 徳風技能専門学校高等課程 |                  | 両校の連携制度 |
|                 |                | 分野           | 学科               |         |
|                 | ドッグケアコース       | 商業実務分野       | 国際ビジネス科          | 高専併修    |
|                 | パソコンコース        |              |                  |         |
|                 | 総合コース          | 文化・教養分野      | 総合科<br>【令和2年度設置】 |         |
| 日本語コース【令和3年度設置】 |                |              |                  |         |

### 重点目標2：“働き方”の更なる進化

- 本学園は令和2年7月に校長直属の特別委員会「働き方改革検討委員会」を設置し、同委員会での審議を経て、同年10月に「働き方改革アクションプラン」を策定しました。同プランでは、「全教職員がワークライフバランスを適切に確保し、生き生きと働くことができる労働環境を整備することは、本学園の円滑な学校経営と教育活動の独自性・卓越性を持続していくための基盤である。」との基本理念の下、単に労働時間・業務量の縮減や教職員定数の改善等を図ることだけに主眼を置くのではなく、「全教職員が日々の生活の質と自らの指導力・人間力を高めながら、豊かで充実した職業人生を送り、円滑な学校経営と効果的な教育活動を行うことができるようにするための時間的・精神的な『ゆとり』を確保すること」を目的にして、本学園独自の「働き方改革」に取り組むこととしています。

- 「働き方改革アクションプラン」に示した20本の改革プランは、内容別に「やめる」「減らす」「変える」「始める・つくる」の4つに仕分けしたうえで、実施時期別に「令和2年度中に実施」「令和3年度中に実施」「令和5年度末までに実施」「令和6年度以降に実施」の4つに区分し、各改革プランを計画的に実施することとしています。
- 令和4年8月には「働き方改革推進プロジェクト」を立ち上げ、それ以後の改革プランを改めて検討する中で、本学園教員の過重労働防止、多忙化解消、満足度向上及び健康経営促進を図る上で最も必要かつ重要と考えた**改革プラン12「寮監業務の抜本的改革」**及び**改革プラン16「1年単位の変形労働時間制の導入」**に特に注力することとしています。

|         | A：令和2年度中に実施   | B：令和3年度中に実施  | C：令和5年度末までに実施                | D：令和6年度以降に実施  |
|---------|---|--|------------------------------|---|
| やめる     | ■ <b>改革プラン1</b> ：教員の急な欠勤に伴う時間割変更の取り止めと自習授業の実施                             |  |                              |   |
| 減らす     | ■ <b>改革プラン2</b> ：土日コースのスクーリング時数削減   | ■ <b>改革プラン3</b> ：広報活動の実施回数削減<br>■ <b>改革プラン4</b> ：除草作業の実施回数削減   |                              |   |
| 変える     | ■ <b>改革プラン5</b> ：文書・チラシ等の折込作業等の機械化<br>■ <b>改革プラン6</b> ：2学期三者懇談会の対象生徒の制限   | ■ <b>改革プラン7</b> ：オンライン授業（金曜4限）を含む時間割の編成・実施<br>■ <b>改革プラン8</b> ：職員室の机配置の一部変更<br>■ <b>改革プラン9</b> ：広報チラシ等作成業務の完全業者委託<br>■ <b>改革プラン10</b> ：教員間の交渉による時間割の一部変更<br>■ <b>改革プラン11</b> ：会議革命 | ■ <b>改革プラン12</b> ：寮監業務の抜本的改革 | ■ <b>改革プラン13</b> ：授業時間の一律標準化（1コマ50分で統一）   |
| 始める・つくる | ■ <b>改革プラン14</b> ：電話対応時間の設定と電話自動音声システムの導入<br>■ <b>改革プラン15</b> ：「学校閉業日」の導入 |  |                              | ■ <b>改革プラン16</b> ：1年単位の「変形労働時間制」の導入<br>■ <b>改革プラン17</b> ：Wi-Fi環境の整備と「生徒一人一台タブレット」の導入<br>■ <b>改革プラン18</b> ：教育課程を基にした各教科の教員数と非常勤講師の時間数の算定<br>■ <b>改革プラン19</b> ：各種特別手当の支給<br>■ <b>改革プラン20</b> ：時間年休の導入 |

#### 4 本年度の重点取組と自己評価

| 重点取組                   | 取組内容・方法等   | 自己評価   |
|------------------------|--|--|
| 1 “徳風スタイル”<br>の更なる進化   | <p>(1) 「自立支援型デュアルシステム」の実施<br/>令和5年度以降の入学生を対象に、インターンシップの標準的な実施方法や一部の専門高校が実施する「デュアルシステム(実務・教育連結型人材育成システム)」とは異なる、本学園生徒の実態等に即した「自立支援型デュアルシステム(自称)」を新たに導入し、2年次での実施を開始します。</p> | <p>夏季休業中に2週間、2年次生対象の学校設定科目「インターンシップ」の授業として「自立支援型デュアルシステム」を実施した。</p>      |
|                        | <p>(2) 「徳風型授業研究」の計画的実施<br/>授業力の向上と真の教育専門職としての職能成長を図るため、月1回水曜日を「レッスンスターデー」と銘打ち、全教員が本校独自開発の授業評価シートを用いて特定の学級での研究授業を参観し、授業後は授業者と参観者が研究協議を行う「徳風型授業研究」を計画的に実施します。</p>          | <p>年度当初に年間計画を作成し、概ね計画どおり実施した。</p>  |
|                        | <p>(3) 授業満足度調査の対象教科・科目の拡大<br/>各共通教科・科目を対象に令和5年度に新たに実施した授業満足度調査の取組の成果を活かし、対象教科・科目を拡大して専門教科・科目の授業満足度調査を実施する。</p>   | <p>共通教科・科目に加えて専門教科・科目も授業満足度調査を実施した。</p>                                  |
|                        | <p>(4) 「徳風総合支援プログラム」の積極的展開<br/>特別な支援を要する生徒に係る関係機関との連携協力体制の更なる充実と拡充を図るため、新たな連携先の確保と広報活動の強化を図ります。</p>  | <p>亀山市福祉担当課等との連携を強化するとともに、県内関係機関12ヶ所を訪問して不登校支援・発達支援従事者との顔の見える関係を築いた。</p> |
|                        | <p>(5) 「自己申告型奨励金制度(エンカレッジ制度)」の本格運用<br/>アルバイトで家計を助ける生徒、家事や家族の介護等をしている生徒など、自らの環境・特性を「バネ」にして前向きに生きる生徒を経済的に支援する新たな奨励金制度を本格的に運用していきます。</p>                                    | <p>申請が一人もなかった。周知方法を検討する必要がある。</p>  |
| 2 組織運営の改善              | <p>(1) 副校長職の新設<br/>教頭兼事務長職を廃止し、副校長兼事務長職を新設して法人経営部門における対応力を強化するとともに、若手教員を教頭職に登用して学校経営部門の対応力を強化します。</p>  | <p>左記どおりの校内人事体制とした。</p>  |
|                        | <p>(2) 「総務部」の新設<br/>教務部と広報部を統合した総務部を新設して総務部・指導部・保健部の3部体制とし、総務部主任は教務主任、同部副主任は広報主任、指導部主任は進路指導主事、同部副主任は生徒指導主事を担うこととします。</p>   | <p>同上。</p>   |
|                        | <p>(3) ミドルリーダーの育成<br/>若手教員を積極的に学校経営の幹部職員に登用するとともに、ベテラン教員による支援体制の構築と「リーダーシップ・マネジメント研修」を通じてミドルリーダーの育成を図ります。</p>  | <p>新規採用者を除く若手教員が主任業務に従事した。また、外部講師を招いて当該研修を実施した。</p>                      |
| 3 「働き方改革アクションプラン」の完全実施 | <p>(1) 1年単位の変形労働時間制の導入<br/>総労働時間の削減を図るため、1年間で平均して1週間当たりの労働時間が40時間を超えないことなどを条件として、業務の繁忙に応じて労働時間を配分する1年単位の変形労働時間制を導入します。</p>   | <p>計画どおり1年単位の変形労働時間制を導入した。</p>   |
|                        | <p>(2) 寮監業務の抜本的改善</p>  | <p>契約を交わした個人事業主が宿直代</p>  |

|  |   |                          |
|--|---|--------------------------|
|  | 個人事業の開業を所轄税務署に届け出た個人事業主と契約を交わし、令和6年度から宿直寮監とともに「宿直代行員」として寮監業務に従事する新たな寮監体制を構築します。 | 行員として令和6年12月まで寮監業務に従事した。 |
|--|---|--------------------------|

## 5 本年度の計画と自己評価

以下の各表において、「現状と課題」欄には当該項目に関する現在の状態と何に取り組む必要があるかについて分析した結果を、「目指す状態」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「次年度行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ記入しています。

### 徳風高等学校全日型コース・徳風技能専門学校高等課程

#### (1) 教育活動

##### ア 学習指導

|         |  |      |  |
|---------|--|------|--|
| 現状と課題   | 学習指導に関する指導力向上のための組織的な取組が弱い。また、常勤教員が少なく、授業時間中は空き時間もほとんどない状況ではあるが、生徒の学力と教員の指導力を継続的に向上させていくための実施可能な仕組みと共通実践が必要である。  |      |  |
| 目指す状態   | 知識・技能の習得を目指す授業と、知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。   |      |  |
| 実践内容    | 授業満足度調査の対象拡大（共通教科・科目を対象に昨年度新たに実施した授業満足度調査を専門教科・科目も対象に実施する。）  | 自己評価 | 専門教科・科目についても授業満足度調査を実施した。  |
|         | 授業研究の定期的実施（独自開発した授業評価シートを用いて全教員が研究授業を参観し、事後に研究協議を行う「レッスンスタディーデー」を年8回実施する。）   |      | 毎月1回水曜日の放課後、特定の学級の協力を得て、「レッスンスタディーデー」を計7回実施した。   |
|         | 高等学校通信教育の充実（「レポート実施計画」を策定し、全教科・科目で添削指導を計画的・系統的に実施する。）  |      | 全日型コースについて、「レポート実施計画」を作成し、計画的に実施した。  |
| 評価指標    | 生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒7割以上<br>職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員8割以上  |      | ( )内の左は2023年度、中は2022年度、右は2021年度の数値を示す。<br>○生徒 65.8% (65.8%、58.2%、65.2%)<br>○職員 73.7% (52.4%、72.7%、57.9%) |
| 次年度行動計画 | ○全教科・科目の授業（非常勤講師の授業を含む。）を対象に授業満足度調査を継続して実施する。<br>○「レッスンスタディーデー」を新任教員による研究授業を中心に計画し、年8回実施する。<br>○教務部・生徒指導部・各学年の連携協力の下、授業直後のスマートフォンの預かり指導の徹底等により授業規律の維持・向上を図る。 |      |  |

##### イ 生徒指導

|       |  |      |                           |
|-------|--|------|---------------------------|
| 現状と課題 | 生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談の充実を継続する必要がある。       |      |                           |
| 目指す状態 | 全教員が生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのか、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を高める必要性について深く共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。 |      |                           |
| 実践内容  | 職員全員が、見て見ぬふりをせず、適時・適切に声かけをしていく。  | 自己評価 | 全教員が適時・適切な声かけをしているとは言えない。 |

|         |  |             |   |
|---------|--|-------------|---|
|         | 常に何が正しく、何が間違っているかを正しく判断し、行動していく。<br>生徒が正しいこと、良いことをした時は機を逸せず褒め、職員間で共有する。<br>判断・行動の基準となる規範を生徒に適宜分かりやすく伝えていく。   | 己<br>評<br>価 | 多くの生徒が規範意識を向上させてきている。<br>褒める実践は概ねできているが共有化はできていない。<br>全教員が適時・適切な規範を示しているとは言えない。   |
| 評価指標    | 問題行動による特別指導件数年間15件以内<br>生徒満足度調査において「適切な生徒指導が行われている」と回答した生徒8割以上   |             | ( )内の左は2023年度、中は2022年度、右は2021年度の数値を示す。<br>○特別指導件数7件(22件、15件、8件)<br>○生徒満足度調査の割合61.6%(55%、69.2%、58.2%)<br>保護者満足度調査では80%。保護者の協力を得ながら、更なる生徒指導に力を注いでいく必要がある。 |
| 次年度行動計画 | ○職員全員が、見て見ぬふりをせず、適時・適切に声かけができるよう、情報共有の機会を増やしていく。<br>○職員、生徒共に「常に何が正しく、何が間違っているか、事をなす優先順位を正しく判断し、行動していく」よう、お互いが声をかけ合う。<br>○生徒が正しいこと、良いことをした時は機を逸せず褒め、職員間で共有する。<br>○対応・指導の「旬」を逃さず、判断・行動の基準となる規範を生徒に適宜分かりやすく伝えていく。 |             |   |

## ウ 進路指導

|         |   |                  |   |
|---------|---|------------------|---|
| 現状と課題   | 進路選択が依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。1年次から段階的に進路意識を高めていくことができるよう、3年間の系統的な進路指導計画を策定し、全教員による共通理解・共通実践が必要である。   |                  |   |
| 目指す状態   | 生徒が、必要な情報を得たり教員・保護者等と適宜相談したりしながら、自分の進路について主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。  |                  |   |
| 実践内容    | 「自立支援型デュアルシステム」の実施<br>企業見学、オープンキャンパス、進路ガイダンス等への積極的参加<br>キャリア教育指導計画の確定と全校体制による進路指導の展開<br>「ようこそ先輩」(社会で活躍する卒業生と在校生が進路について語る会)の実施   | 自<br>己<br>評<br>価 | 事前・事後学習、成果発表会を実施。但し、3名が完遂できなかったことは次年度の課題である。<br>各学期に企業・上級学校を招いた進路ガイダンスに参加。<br>キャリア教育指導計画を作成し、各学期に「キャリア教育週間」を新設した。<br>卒業生の退職が相次いだこともあり、実施できなかった。 |
| 評価指標    | 希望どおり進路実現を果たした生徒9割以上<br>生徒満足度調査において「適切な進路指導が行われている」と回答した生徒8割以上  |                  | 97%(保護者・本人納得の上でのアルバイト6名を含む。)<br>74.6%(一部生徒の進路実現が遅れたことが影響した。)  |
| 次年度行動計画 | ○3年生に対する個別指導を強化し、進路実現の早期化を図る。<br>○2年生は「自立支援型デュアルシステム」において、途中でリタイアしないように、事前指導を強化する。<br>○引き続き毎学期に「キャリア教育週間」を設け、企業・上級学校を招いた進路ガイダンス等に積極的に参加させる、キャリア発達を促進する。<br>○高校生向け求人票管理システム「HANDY」を新たに導入して求人票のデジタル化を実現し、3年生が自宅でも情報を得られるよう指導する。 |                  |   |

## エ 安全・健康指導

|       |   |
|-------|---|
| 現状と課題 | 保健主事と養護教諭が常駐する「保健部」を令和4年度に設置したところである。今後は、生徒と学校の実態を踏まえ、健康指導に関する業務の適切な遂行方法について検討し、同部が健康教育のセンターとしての機能を発揮していく必要がある。 |
| 目指す状態 | 生徒一人ひとりが心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別な支援を必要とする生徒に関する校内ケース会議などが適宜開かれ、当該生徒に関する必要な情報を全教員が共有し、適切な指導・対応が行われている。 |

|         |  |      |  |
|---------|--|------|--|
| 実践内容    | 健康診断の結果に応じた事後指導を確実・適切に行う。  | 自己評価 | 健康診断結果を1学期三者懇談会でも再度通知することで、再検査など必要な医療に繋げることができた。                             |
|         | 生徒相談機能の充実に向けた啓発を行う。  |      | 入学予定者登校日に個別相談を受け付けたり、保護者が来校する学校行事で保健部の役割を伝えたりして啓発に努めた。                       |
|         | 校内特別支援教育委員会を年5回程度実施する。   |      | 「生徒情報交換会」の設置・開会、「生徒情報シート」の作成等を通じて特別支援を要する生徒の情報共有に努めた。来年度は校内特別支援教育委員会を定着させたい。 |
|         | 学年会に参加し、ケース検討会に繋げる。  |      | 第1学年の学年会に参加することはできたが、第2・3学年の学年会には参加できなかった。ケース検討会の必要性・意義について共通理解が必要である。       |
|         | 「徳風総合支援プログラム」の積極的展開。   |      | 夏季休業日に関係機関12ヶ所を訪問し、不登校支援・発達支援従事者との顔の見える関係を築くことができた。今後この連携を継続し、生徒支援に活かしていく。   |
| 評価指標    | 心身の健康状態が年度当初に比して改善された生徒多数  |      | 相談継続の生徒は多数いる。当該評価指標の継続使用が適切かどうか検討したい。  |
| 次年度行動計画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内特別支援教育委員会の定着を図るため、年間行事に位置付ける。</li> <li>○「徳風総合支援プログラム」の更なる推進を図るため、関係機関訪問を継続するとともに、亀山市・津市の中学校養護教諭との研修を企画する。</li> <li>○生徒向けの性教育講演会を継続実施し、生徒対象「献血セミナー」を新たに実施する。</li> <li>○新入生とその保護者を対象に保健室・生徒相談の在り方についてアンケートを実施する。</li> <li>○保健室・相談室を「健康教育センター」として有機的に機能させるため、フローチャートを作成し、年度当初に全教職員への周知徹底を図る。</li> </ul> |      |  |

## オ 特別活動

|         |  |      |                                       |
|---------|--|------|---------------------------------------|
| 現状と課題   | 友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考え行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら楽しく学校生活を送れるよう、生徒の対人コミュニケーション・スキルを更に向上させる必要がある。 |      |                                       |
| 目指す状態   | 生徒が学校行事、生徒会活動等に積極的に取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている。  |      |                                       |
| 実践内容    | 「意見ボックス」を校内に設置し、生徒たちの学校への思い・意見を募る。   | 自己評価 | 「意見ボックス」は設置できなかったが、全校生徒対象にアンケートを実施した。 |
|         | 生徒が主体的に計画・実施する体育祭・文化祭の開催。  |      | 生徒会役員主導で生徒主体の体育祭・文化祭を開催した。            |
|         | ボランティア活動等への積極的参加。  |      | 生徒会の校外活動として街頭募金活動及び地元の伝統行事に代表生徒が参加した。 |
| 評価指標    | 生徒満足度調査において「学校行事や生徒会活動は有意義なものになっている」と回答した生徒8割以上  |      | 78.4%                                 |
| 次年度行動計画 | 生徒主体の企画を体育祭・文化祭以外にも提案し、実施していく。   |      |                                       |

## カ 部活動

|         |   |      |                           |
|---------|---|------|---------------------------|
| 現状と課題   | 年間を通じて活動している部は少ないが、東海・全国大会に出場する生徒は少なくない。今後は、部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。 |      |                           |
| 目指す状態   | 多くの部が計画的・自主的に活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。 |      |                           |
| 実践内容    | 生徒会主催の部長会議を学期ごとに開く。   | 自己評価 | 1学期は実施したが、2・3学期は実施できなかった。 |
|         | 部員主体の新入部員勧誘活動の実施。   |      | 新入生歓迎会等の部員主体の勧誘活動を実施した。   |
| 評価指標    | 生徒会予算の有効活用。   |      | 必要な備品を整備するなど部活動が活発化してきた。  |
| 評価指標    | 生徒満足度調査において「部活動は活発に行われている」と回答した生徒6割以上                               |      | 59.1%                     |
| 次年度行動計画 | 部長会議を学期ごとに開き、部活動を更に活発化していく。   |      |                           |

## キ 総合コース

|         |   |      |   |
|---------|---|------|---|
| 現状と課題   | 生徒の満足度は高いが、慢性的に生徒数が少数であり、コースとしての方向性を明確にし、特色化・魅力化を図る必要がある。                           |      |   |
| 目指す状態   | 明確化された「目指すコース像」とコースとしての存在意義の共通理解の下、生徒が課題研究を中心とした学習活動に意欲的に取り組み、希望進路を実現して社会参加を果たしている。 |      |   |
| 実践内容    | 入学者増につながる総合コースの方向性の明確化。   | 自己評価 | 選択講座では生徒にファイルを持たせたり、「振り返りシート」等を活用したりするなど創意工夫を重ねたが、入学者増を促進する方向性の明確化には至らなかった。 |
|         | 「スポーツ講座」の特色化・魅力化を図る。  |      | 「スポーツをしたい」と思う生徒を集めて実施するも、特色ある内容を実施できなかった。                                   |
|         | 「基礎教養講座」の新設。  |      | 計画どおり「基礎教養講座」を新設し、ボールペン習字を中心とする授業に取り組んだ。                                    |
| 評価指標    | 生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上  |      | 89.3%   |
| 次年度行動計画 | 〇入学者増につながる選択講座の魅力化と再編に取り組む。   |      |   |

## ク ドッグケアコース

|         |  |      |  |
|---------|--|------|--|
| 現状と課題   | 生徒によって能力や目的意識の差が大きく、個々に対応した指導方法を随時検討し、実践する必要がある。また、高い目的意識を持って本校に入学した生徒に対しても、その期待に応え、希望進路を実現できるよう、プロスタッフの充実と更に高度で専門的な指導の充実を図る必要がある。 |      |  |
| 目指す状態   | 全職員が「目指すコース像」について共通理解をしたうえで共通実践し、生徒が生き生きと学習活動に取り組み、希望する進路を実現している。  |      |  |
| 実践内容    | コース認知度向上を目指し、地域イベント等の情報収集を行い、校外活動に積極的に参加する。  | 自己評価 | 実施できなかった。                                      |
|         | 進路選択の幅を広げるため、積極的に事業所訪問を行い、インターンシップ先や企業見学先を増やす。   |      | 卒業生が働く事業所等へ積極的に働きかけ、インターンシップと就職先としての受入れをお願いした。 |
|         | 授業時間数確保のため、長期休業中における集中実習の時間数を増やす。  |      | 夏季・冬季休業日に行う3年生対象の集中実習を、各1回から各2回に増やした。          |
| 評価指標    | 希望どおり進路実現を果たした生徒9割以上   |      | 100%   |
|         | 生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上  |      | 88.9%  |
| 次年度行動計画 | 〇コース満足度向上を目指し、関係機関との連携を図り、講演会やイベント等のコース行事を積極的に実施する。<br>〇コースの認知度向上を目指し、広報活動と社会貢献活動として各種イベント等に積極的に参加する。                              |      |  |

## ケ パソコンコース

|                                   |   |       |   |
|-----------------------------------|---|-------|---|
| 現状と課題                             | 生徒間で検定試験の合格状況に差があることから、全生徒に検定試験合格の目標設定が必要である。また、生徒の得意分野における能力を伸ばさせるため、自主的に学習できる環境を整える必要がある。                 |       |   |
| 目指す状態                             | 全生徒が複数の検定試験を受験し、合格している。また、個別に設定された目標の実現に向け自主的に学習している。   |       |   |
| 実践内容                              | ICT 機器(授業用端末及び周辺機器)の計画的配備   | 自己評価  | 情報研修棟へのプリンタの配備及び授業内容に応じたアプリケーションソフトの導入はできた。 |
|                                   | 日本情報処理検定協会をはじめ各種検定の実施及び検定対策   |       | 各種検定を計画どおり実施した。                             |
| プログラミング、作品制作を通じた発表の機会の創出と広報活動での活用 | プログラミング関係の取組は概ねできたが、作品制作関係の取組は計画どおりにできなかった。   |       |   |
| 評価指標                              | 日本情報処理検定3級以上の取得生徒8割以上   | 87.4% | 3級以上合格58% (3級合格86%)                         |
|                                   | 生徒満足度調査における「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上   |       |   |
| 次年度行動計画                           | ○資格取得に向けた指導を強化する。      ○ドローンや電子工作等の実習を新たな指導内容としてシラバスに組み入れる。<br>○教員間の情報共有と共通理解を図りながら、アプリケーションソフトの選定等を計画的に行う。 |       |   |

## コ 日本語コース

|         |  |       |  |
|---------|--|-------|--|
| 現状と課題   | 令和3年度に設置したところであり、他コースとは異なる種々の課題を解決し、その成果を校内で共有しながらコース経営の活性化を図っていく必要がある。  |       |  |
| 目指す状態   | 進学希望の生徒は日本語能力試験(JLPT)の「N2」、就職希望の生徒は「N3」にそれぞれ合格し、希望進路を実現している。また、日本語指導を必要とする外国籍生徒等に対する後期中等教育の在り方について、本コースがその教育モデルとして広く認知されている。   |       |  |
| 実践内容    | 2年生対象のインターンシップの継続実施  | 自己評価  | 2年生全員がインターンシップに参加し、1年生への成果発表会を実施。                |
|         | 卒業生による進路講話の新規実施  |       | 卒業生による進路講話は実施できなかったが、卒業後の学校・仕事の話を在校生に共有することができた。 |
|         | 企業見学やオープンキャンパスへの積極的参加  |       | 夏季・冬季休業日に上級学校を見学した生徒半数以上。                        |
|         | 地域のイベント等への積極的参加  |       | 亀山地域のボランティア団体と交流した。                              |
| 評価指標    | 日本語コース全員の進級・卒業   | 93.3% | 2年生1名が進路変更のため中途退学し、3年生は全員卒業した。                   |
|         | 3年生全員の希望進路実現   |       | 全員が希望進路実現を果たした。                                  |
|         | 生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上  |       |  |
| 次年度行動計画 | ○コースのマネジメントポリシーである「希望進路を実現する“自立した日本語使用者”を育成するコース」の実現に向けた取組の強化を図ります。<br>・一人一人の日本語の習得状況に応じた指導の工夫と充実<br>・1年次での JLPT 「N4」 全員合格、3年次までの JLPT 「N3」 全員合格及び J. Test の相当級合格に向けた試験対策の実施<br>・地域社会との共生に向けた地域住民との交流活動の実施 |       |  |

## (2) 学校運営等

### ア 教育環境の整備

|         |  |      |  |
|---------|--|------|--|
| 現状と課題   | 防火対策に係る工事を進めるとともに、設備更新や改修・修繕を要する箇所を洗い出し、計画的に対策を講じていく必要がある。   |      |  |
| 目指す状態   | 修繕・工事等を計画的に行い、生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。  |      |  |
| 実践内容    | 優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施（防火対策に係る工事を含む。）   | 自己評価 | 優先順位の高い修繕・工事を適宜実施したが、防火対策関係工事は着手できなかった。              |
|         | ICTに関わる教育備品等の導入及び新備品（机・椅子）と旧備品の一部入れ替え。<br>新教室へのエアコン設置、体育館の緞帳修繕、体育館への校歌パネル設置等。                                |      | ICTに関わる教育備品等の本年度予定分を導入した。<br>職員室にコピー機、新教室にエアコンを設置した。 |
|         | 安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施。   |      | 安全点検の結果、急を要する修繕は早期に実施した。                             |
| 評価指標    | 計画した工事の8割以上実施  |      | 寮の洗い場等の修繕工事及び情報棟の屋根修繕工事を実施し、全教職員で環境整備作業を夏季休業日に実施した。  |
| 次年度行動計画 | ○ICTに関わる教育備品等の継続導入。 ○優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施の継続。（防火対策に係る工事を含む。）<br>○安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施の継続。 ○治安対策として木の剪定の継続実施。 |      |  |

#### イ 広報・生徒募集

|         |  |      |   |
|---------|--|------|---|
| 現状と課題   | 教育活動の特色化・魅力化に向けた経営努力が入学者増に繋がらない状況が続いており、特に伊賀地区、松阪地区及び滋賀県からの入学者が減少傾向にある。今後、「徳風スタイル」による学校経営が県内外の中学校・中学生に一層周知され、入学者増に繋がる広報の在り方を追求する必要がある。   |      |   |
| 目指す状態   | 「総務部」が主導する広報・生徒募集活動が功を奏し、毎年度、募集定員を概ね充足する入学者数の確保を維持している。  |      |   |
| 実践内容    | 「中学校訪問」を更に効果的・効率的に実施できるよう訪問の時期・対象・持参物等の抜本的見直し（印刷物のデザイン等の見直し含む）   | 自己評価 | 実施時期に応じて中学校を訪問対象校と資料送付対象校に区別したり、報告書の様式を全面改定したりして訪問業務の効率化を図った。 |
|         | 広報ツールとしてのホームページの活性化のための活用方針の作成及び研修の実施  |      | オープンキャンパスに関する内容は更新したが、活用方針の作成及び研修の実施には至らなかった。                 |
|         | ホームページ、SNSを積極的に活用した広報活動の実施   |      | SNSの積極活用には至らなかった。   |
| 評価指標    | 次年度入学者1割増  |      | 5%増   |
| 次年度行動計画 | ○「徳風高等学校通信教育改革プラン」に基づき令和7年度から募集を開始する2つのコース（3Dayコース・1Dayコース）について、積極的・効果的に広報活動を展開し、必要となる広報リーフレット・チラシ等の印刷物を早期に完成させる。<br>○「中学生の若い感性に響き、本学園への入学意欲を喚起する広報」、「保護者の注目を集め、本学園への期待を高める広報」、「中学校教員の進路指導に役立ち、本学園への信頼・信用を高める広報」について徹底議論し、その結果を方針として取りまとめ、行動に移す。 |      |   |

#### ウ 組織運営

|       |   |      |  |
|-------|---|------|--|
| 現状と課題 | 主任会に替わる少数精鋭の「学校経営委員会」の設置、生徒指導と進路指導の機能を併せ持つ「指導部」の設置、教務部と広報部を統合した「総務部」の設置等、組織運営の効率化・活性化を図るための組織改編を繰り返してきたが、今後は、これらの組織改革の成果を検証しつつ、令和2年度に策定した「働き方改革アクションプラン」を計画的且つ確実に実施していく必要がある。 |      |  |
| 目指す状態 | 職員一人一人が「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら職務を遂行し、「誰の仕事でもない仕事は自分の仕事」、「他者のために尽くすことが自分の仕事」などと考え行動する「協働」の姿勢と「利他」の精神を体現した職員が多い。  |      |  |
| 実践内容  | 管理職会議を機動的に行い、情報共有を図る。   | 自己評価 | 管理職3名による会議・打合せを適宜行った。                              |
|       | 教頭と各部主任（分掌・コース・学年）による情報共有のための「主任会」（月1回）を新たに設置し、必要に応じて学校としての意思決定も可とする権限移譲を行う。  |      | 「主任会」の定期開会より、適時かつ円滑な情報共有と意思疎通の方が組織運営に有効であることが分かった。 |

|         |   |   |   |
|---------|---|---|---|
|         | ミドルリーダー・新任教員との教頭面談を月1回実施し、コンサルテーションを行う。   | 価 | 教頭面談の定期実施は年度途中で断念し、必要時に必要な教員とのコミュニケーションの円滑化に努めた。                    |
|         | 各部が作成する年間指導計画を新たにホームページで公表する。   |   | 各部の年間指導計画は年度当初に作成し、ホームページで公表した。                                     |
|         | リーダーシップ・マネジメント研修を年2回実施する。   |   | 夏季休業日に1回実施した。   |
|         | 水曜日を「ノー残業Day」とし、全員18時退勤を目指す運動を展開する。   |   | 水曜日の校時表を見直し、放課時間を早めて「ノー残業Day・全員18時退勤」を目指す運動を展開した。                   |
| 評価指標    | 職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員8割以上  |   | ( )内の左は2023年度、中は2022年度、右は2021年度の数値を示す。<br>45.0% (27.3%、40.9%、36.9%) |
| 次年度行動計画 | ○毎朝の職員打合せ終了後の「管理職打合せ」をルーティン化する。<br>○ミドルリーダー育成の観点に立ち、若手教員を積極的に学校経営の幹部職員に登用する。<br>○過重労働防止及び健康経営促進の観点に立ち、主任を兼務する教員をできるだけ少なくする。 |   |   |

## エ 学校満足度

|         |   |   |  |
|---------|---|---|--|
| 現状と課題   | 生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる取組を定着させる必要がある。   |   |  |
| 目指す状態   | 生徒・保護者・職員の学校満足度の高い状態が続いている。   |   |  |
| 実践内容    | 生徒会からの要望1つ以上実現  | 自 | 生徒会からの3つの要望を実現した。  |
|         | 職員相互の組織貢献的振る舞いを称え合う「美点凝視の会」を定期開催する。   |   | 開催できなかった。  |
| 評価指標    | 生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を継続実施。  | 己 | 実施した。  |
|         | 生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒・保護者・職員各8割以上  | 評 | ( )内の左は2023年度、中は2022年度、右は2021年度の数値を示す。<br>・生徒 73.5% (69.0%、62.9%、65.2%)<br>・保護者 70.7% (70.9%、77.2%、73.6%)<br>・職員 40.0% (45.4%、59.1%、52.7%) |
| 次年度行動計画 | ○満足度向上の阻害要因を分析し、その結果と必要に応じて対策を講じる。<br>○生徒会活動の活発化が著しいことから、民主的な手続きを経たうえでの生徒会からの要望は、その実現に向けて真摯に対応する。<br>○本年度新たに導入した「1年単位の變形労働時間制」を「働き方改革」の仕組みとして定着させるため、年5日を限度とする「時間単位年休」の取得を可とするなど必要な改善を図る。 |   |  |

## 徳風高等学校土日コース・平日サポートコース

|       |   |   |                     |
|-------|---|---|---------------------|
| 現状と課題 | 両コースには、入学試験を受けて新規入学した生徒だけでなく、全日型コースから転籍した生徒、他校から転・編入学した生徒も在籍するなど、多様な生徒が在籍していることから、個に応じた学習指導等きめ細かな指導の充実を図る必要がある。 |   |                     |
| 目指す状態 | 生徒一人ひとりが学業と就労等の両立を図りながら、単位修得・進級・卒業を果たしている。  |   |                     |
| 実践内容  | 生徒対象の満足度調査を実施し、その結果を改善の基礎資料とする。   | 自 | 年度末に実施。             |
|       | 各教科・科目等の添削指導に係る課題レポートへの記載内容の改善に努める。   |   | 添削内容を詳細にするなど改善を図った。 |

|         |   |    |                                 |
|---------|---|----|---------------------------------|
|         | 全日型コースを有するからこそ可能な施設・設備の共用と教員の指導・対応により、生徒の学校満足度を高める。   | 評価 | 教育相談・進路相談の充実を図るなど、指導・対応の充実を図った。 |
| 評価指標    | 生徒対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上   |    | 66.7%                           |
| 次年度行動計画 | ○引き続き生徒対象の満足度調査を実施し、改善の基礎資料とする。<br>○面接指導の展開方法を根本的に見直し、教科指導の充実を図る。<br>○土日コース・平日サポートコースは、令和7年度から募集を停止し、令和8年度からは「徳風高等学校通信教育改革プラン」に基づき立ち上げる新コースと併存することになるため、履修登録をしない「不活発生」の在籍関係の精査その他必要な対応・指導を行う。 |    |                                 |

### 徳風高等学校技能連携校コース

|         |   |      |                            |
|---------|---|------|----------------------------|
| 現状と課題   | 技能連携校2校（鴻池学園高等専修学校及び大阪技能専門学校。以下「当該2校」という。）は高等学校通信教育規程に基づく通信教育連携協力施設であり、当該2校と良好な連携協力体制を築きながら、適正かつ効果的に通信教育を実施する必要がある。 |      |                            |
| 目指す状態   | 当該2校の生徒一人ひとりが専門的な知識・技能を習得しながら、本校での単位修得・進級・卒業を果たしている。  |      |                            |
| 実践内容    | 高等学校通信教育規程第14条第1項の規定に基づく情報公開を引き続き行う。  | 自己評価 | ホームページで情報を公開した。            |
|         | 各教科・科目等における添削指導に係る課題レポートへの記載内容の改善に努める。  |      | 添削内容を詳細にするなど改善を図った。        |
|         | 連携協力会議を引き続き年1回以上実施する。   |      | 各技能連携校を8月に訪問し、連携協力会議を実施した。 |
| 評価指標    | 生徒対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上   |      | 当該2校とも7割を超えた。              |
| 次年度行動計画 | ○引き続き生徒対象の満足度調査を実施し、改善の基礎資料とする。<br>○面接指導の展開方法を根本的に見直し、教科指導の充実を図る。<br>○昨今の郵便事情を鑑み、添削指導の結果等に関する情報共有を迅速にできる方法を模索する。    |      |                            |

### 徳風技能専門学校専門課程

|       |  |      |   |
|-------|--|------|---|
| 現状と課題 | 徳風高等学校の卒業者に限ることとしてきた受入方針を令和3年度入試から改め、三重県立高等学校の卒業生も入学定員の5割を上限に受け入れることとしているが、入学者は極めて少ない状況にある。少人数教育の利点を活かしつつ、学生募集にも一層注力する必要がある。 |      |   |
| 目指す状態 | 入学定員を充足する入学者数があり、専門学校としての経営の安定化が図られている。  |      |   |
| 実践内容  | 教務内規を抜本的に見直す。  | 自己評価 | 学習評価の方法を見直したが、教務内規の改定には至らなかった。                      |
|       | コンピュータ科のカリキュラムを見直し、持続可能化・魅力化を図る。   |      | ゲーム制作とエクセルマクロ（VBA）を組み入れるなど、プログラミングの指導方法を見直した。       |
|       | 学習環境の整備（PCの更新、不要なロッカーの撤去、靴箱の買換え等）。   |      | 不要物の撤去等整理して学習環境の改善に努めた。PCの更新はできなかった。                |
|       | 各学科に応じた各種検定試験等の対策強化。   |      | コンピュータ科は「ITパスポート試験」、トリミング科は「愛玩動物飼養管理士試験」の受験対策を強化した。 |
|       | 全科目対象授業満足度調査及び学校満足度調査を各学期末に実施する。   |      | 前期は実施できなかったが、後期は実施した。                               |
| 評価指標  | 年度末の学校満足度調査で「概ね満足」と回答した学生7割以上<br>令和7年度新入学生6人以上   |      | 100%<br>コンピュータ科0人、トリミング科2人。                         |

|         |   |
|---------|---|
| 次年度行動計画 | <p><b>【専門課程全体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入学者増に向けた広報活動（オープンキャンパス、高校訪問等）を積極的に展開する。</li> <li>○懇談会等を通じて学生の相談機能の強化を図る。</li> </ul> <p><b>【コンピュータ科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ITパスポート試験」合格に向けた教材を整備する。</li> <li>○プログラミングの指導方法を更に改善するとともに、インフラ系・クリエイティブ系のカリキュラムを充実させる。</li> </ul> <p><b>【トリミング科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブリーダー等訪問者が多いため、清掃の徹底により実習環境を整え、接遇マナーやコミュニケーション・スキルの向上のための指導を強化する。</li> <li>○学生が自身の得意・不得意に気づき、苦手を自ら克服できるよう指導・支援を強化する。</li> </ul> |
|---------|---|

## 6 本年度の学校関係者評価

令和7年3月4日に学校関係者評価を実施し、評価結果の要点は以下のとおりです。

- 「働き方改革」を進める中で、本年度から始まる重点取組が多い。職員の多忙化促進と著しい負担増を招かないよう十分留意すべきである。
- 組織体制の変更は慎重に行うべきである。短期間での変更は慎むべきである。
- 学習指導に係る評価指標の「職員満足度調査において授業力が向上したと回答した教員の割合」が過去最高であったのは授業研究の成果と考えられること、生徒指導に係る評価指標の「特別指導件数」が年々減少していること、進路指導に係る評価指標の「希望どおり進路実現を果たした生徒の割合」がほぼ100%だったことなどは、各取組の成果であり評価できる。その成功要因を分析し、引き続き成果を上げることができるよう、分析の結果を共有されたい。
- 日本語コースは他コースに比して、進路保障に苦慮する生徒が相対的に多いと思われる。就労につなげることが困難な生徒については、設置者が経営する福祉施設への就職も検討されてよいのではないかと。
- 生徒の満足度を向上させるためには、校則を廃止したり、パソコンコースのシラバスにドローンに関する学習内容を組み入れたりするなど、社会の変化に対応した学校教育を進める観点に立って総合的に検討すべきである。

## 7 次年度に向けた主な行動計画

上記4～6を踏まえた次年度の主な行動計画は以下の3点です。

- 令和6年12月に策定した「徳風高等学校通信教育改革プラン」に基づき、徳風高等学校に設置している土日コース・平日サポートコースについて、令和7年度に募集を停止するとともに、週3日通学する「3Day(スリーデイ)コース」と週1日通学する「1Day(ワンデイ)コース」に改編して募集を開始する計画です。この計画を円滑に実施できるよう、改革準備委員会を立ち上げ、指導体制・教育課程・学習環境等に係る条件整備や広報活動を計画的に進めます。
- 令和6年度に新たに実施したこと（「自立支援型デュアルシステム」の実施、「徳風型授業研究」の計画的実施、「キャリア教育週間」の各学期実施等）や、特に注力して成果を上げたこと（「徳風総合支援プログラム」の効果的実施に資する関係機関との関係づくり、生徒主体の学校行事等）を新たな“徳風スタイル”に組み入れることができるよう、必要な改善を図りながら引き続き実施する計画です。
- 令和2年10月に「働き方改革アクションプラン」を策定後、令和4年8月に「働き方改革推進プロジェクト」を立ち上げ、過重労働防止、多忙化解消、職員満足度向上及び健康経営促進を図る上で最も重要かつ緊急を要するとした2つの改革プラン（「寮監業務の抜本的改革」及び「1年単位の変形労働時間制の導入」）を令和6年度に実施したところであり、次年度は、当該両プランの制度的定着を図るとともに、「働き方改革アクションプラン」の完全実施に向け、長年の課題であった「時間年休」を導入するなど、引き続き「働き方改革」を進める計画です。